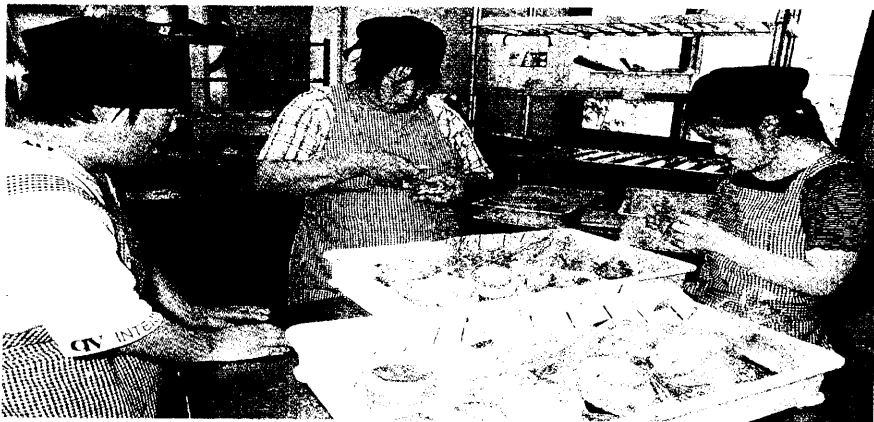


自立パン店 膨らむ意欲

沼隈の「ゼノ」運営 通所者製造から販売

喫茶店も「地域貢献の場」に



焼き上がったパンを袋に詰める通所者たち

福山市沼隈町に知的障害者が働けるパンの店と喫茶店が、相次いでオープンした。同町に拠点を置く社会福祉法人「ゼノ」少年牧場の社会就労センターわかば（西村重明所長）が運営。地域のひとと協力し、笑顔のもとでお客様の輪を広げていきたい考えた。

（赤江裕紀）

七月中旬、同町草深に「おいしい」と喜ぶ。オープンした「パン屋

麦っ子」。土、日曜と祝日を除き通所者十四人が交代で、工場と併設の売店に勤める。自家製小麦も使い、あんぱんや食パンなど目替わりで十五種類のパンを製造販売。最低でも一日百五十個、多い日には五百個を作る。

職員の指導で生地成形、パン焼き、袋詰め、レンジ打ちなどをきみきひとこなす。パン焼きやレンジを担当する小川敬太さん（21）柳津町は「毎日楽しい。お客さんもおいしいと言ってくれてう

パンの店は、同センターが通所者の就労促進を目標として四年前から計画。職員が他のパン店で修業し、製造から販売までのノウハウを学んだ。昨年からは近くの農家の指導で自家製小麦を栽培し、一部商品の材料としている。

六月中旬には、同町中山南に喫茶アクリも開店した。旧沼隈町の農産物加工施設だった八十七平

方々の店舗を市から借り受け、一階の喫茶店に改装。うどんやカレー、飲み物を提供する。近所の人が農産物を販売できるスペースも設けた。調理師が飲食物を仕上げ、こちらは四人が交代で配膳や接客、清掃にあたる。

西村所長は「障害のある人たちの仕事の選択ができる場にした」と意気込んでいる。